

大河ドラマによる観光客の変遷

大河ドラマは過去には 540 億円もの経済波及効果をもたらすこともあり、観光客誘致効果を期待されるコンテンツである。しかし生活様式の変化などから現在でも同じような集客効果があるかは明らかではない。そのため著者は現代でも大河ドラマには観光の軸となる力があると仮説を立て、大河ドラマが今後も観光の軸となれるコンテンツであるかを 2010 年以降の作品を対象に検証していく。

第 1 章では 2010 年以降の作品を対象にゆかりの地における観光客数の変化から近年の集客効果の変化を調査した。その結果 2000 年以前ほどの持続性は見られないが、多くの地域で観光客が増加しているため現代でも大河ドラマは集客効果をもつことが明らかになった。

第 2 章では自治体が公表していない具体的な観光客層を調べるため、2021・2022 年放送の作品のゆかりの地で著者が計測したデータから考察をおこなった。その結果、どちらの地域でも男女差は見られないが、40 代以上の観光客が 8 割を占めており若い世代への集客への課題が見られた。しかし新型コロナウイルスの影響があるなかで平均して 1 日に約 400 人の観光客を集めていることから現代においても大河ドラマによる観光は大きな集客効果をもたらすと考えられる。

第 3 章では 2022 年度放送作品の大河ドラマ館がある静岡県伊豆の国市の職員の方へのヒアリングから大河ドラマが地域にもたらす影響と課題を調査した。するとコロナ禍で広報などの変革を余儀なくされたが、北条というコンテンツを自治体全体で再認識し、自治体全体で地域を盛り上げようとする自主性が生まれていることが明らかになった。そのような地域一体の取り組みから 15 億円に及ぶ経済波及効果が試算されている。また今後の観光政策に向けた新たな選択肢が生まれ、観光地としての付加価値の増加に繋がっている。

これらの調査から大河ドラマは現代においても大きな集客能力を持ち、地域に新たな観光資源をもたらしていることが明らかになった。よって大河ドラマは現代でも観光の軸となれるコンテンツであるという仮説は証明された。